

国立病院機構熊本医療センター

No.240



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519



## 脳血管内治療を始めました



脳神経外科医長

中川 隆志

当院救命救急センター及び脳神経センターには、熊本県内から多くの救急患者様及び紹介患者様が受診されます。脳神経外科で手術となる患者様も多く含まれ、クリッピング術、開頭血腫除去術、穿頭血腫除去術等、これまで多くの手術を行ってきました。

熊本県は全国的に見て、脳血管障害に対する脳血管内治療がまだ発展途上の段階です。そのような中、当院では今年度から新たにバイブレーション血管造影装置が稼働し、脳血管内治療が可能となりました。脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、内頸動脈狭窄症に対する頸動

脈ステント留置術、急性期脳梗塞に対する血栓回収術、頭部外傷に対する止血術等、当院で症例数が少なかった治療をコメディカルスタッフの協力の元、拡充していきたいと思っております。

早速ではありますが、4月に破裂動脈瘤に対するコイル塞栓術及び内頸動脈狭窄症に対する頸部ステント留置術を行い、無事に終了しました。これを機に院内での脳血管内治療の体制を構築することで、脳血管障害を中心に頭部外傷や脳腫瘍に対しても患者様の病態にあった最善の治療法を提示できるようになります。

脳神経外科手術に加え、脳血管内治療を希望される患者様もしくは適応のある患者様が先生方の病院を受診された際は、是非当院救命救急センターもしくは脳神経センターにご紹介下さい。これまでの脳神経外科手術の実績を元に、熊本県の脳血管内治療の礎の一部を新たに築くことができればと思っています。

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供  | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進      | 5. 国際医療協力の推進     |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営          |

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「真の地域医療を模索中です」

松本外科内科医院

院長 松本 孝嗣



くまびょうNEWSに寄稿する機会を頂戴し感謝申し上げます。また、いつも迅速に症例を受け入れて頂き大変有難うございます。

祖父・父と代々続いた医院を継承して5年が経ちました。私は外科・救急・消化器内視鏡の専門医を有しております。決して高いレベルとは言えませんが、病気もケガも診て、在宅医療で多職種の方々と接する私にとっては、救急医としての経験が最も役に立っていると感じます。少なくとも救急科専門医だけは更新を継続したいと思っていますが、新しい

専門医制度では厳しいようです。また、「くまもとICLS研究会」を立ち上げ、医療従事者に対する心肺蘇生トレーニングや指導者養成などの活動を行っておりますが、なかなか素人の域を脱せないのが悩みです。

これといった特色の無い診療所ですが、ひとつ自慢できる所があります。職員が辞めません。師長を筆頭に、全ての職員が当院以外で勤務したことがなく、院長の私が一番キャリアの浅い下っ端です。当院がうまくいっているかどうかの判断基準は、経営状態ではなく職員が辞めずにいてくれるかどうか、だと思っています。

当院は城東校区の新市街にあり、私自身もシャワー通り商店会の役員をしております。城東小学校で熊本復興支援ファーストエイド講座を開催したり、下通繁栄会と協力して商店街アーケードにAEDを設置したり、サンロード新市街のイベントにAED体験コーナーで参加したり、しています。勤務医から開業医に転職しましたが、未だ「開業医として生き残るには？」という課題は解決に至りません。しかし、街中の開業医として、商店街の皆さんと一致団結して「安心・安全なまちづくり」に少しでも貢献することこそ、真の地域医療に繋がると信じて、これからも24時間365日体制で頑張っ参ります。

## リエゾンチームがスタートしました

平成29年5月から当院では精神科リエゾンチームがスタートしました。

リエゾンとはフランス語で連携を意味しています。精神科医療と身体科医療の積極的連携を図り、一般病棟において入院中の患者様やその家族の精神症状や心理的問題に対して専門的技術をもって身体的・精神的・社会的な視点から個別性を大切に治療・ケアを行うチームで、治療に関わるスタッフの心身の健康をサポートする役割も担っています。特に、一般病棟に入院する患者様のうつ状態、せん妄、自殺企図などへの対応が中心となります。チームは、精神科医、精神看護専門看護師（精神科リエゾナーズ）、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師、臨床心理士などで構成され多職種で協働します。チームは、一般病棟で患者様の診察および精神症状の評価を行い、定期的なカンファランスを実施し、意見をまとめ治療法の検討を行くことにより、精神症状の改善を図ります。チームの活動により、精神症状が軽



リエゾンチームスタッフ

減することにより身体疾患の治療が円滑に行われるために在院日数の短縮や、せん妄の遷延を防止することで転倒などのリスクを低下させることができます。当院のような救急病院では、精神科医療と身体科医療の連携を要する場面が多くリエゾンチームの活動が病院全体の医療の質の向上に大きな役割を果たすものと期待されます。

（統括診療部長 渡邊健次郎）



## 5月31日から敷地内全て禁煙になります

2003年施行された健康増進法の第25条で、受動喫煙防止の提言がなされました。

当院は2009年9月に現在の病院へ新築移転となったことをきっかけに、敷地内全面禁煙を開始しましたが、入院患者の一部や外来患者やその家族、病院スタッフが敷地外で喫煙を始めました。病院の立地もあり熊本城二の丸公園入口付近で患者は病衣を、スタッフは白衣をきたままでの喫煙は非常に目立ち、観光客が増えてきたことも重なり、クレームや批判が噴出したため、やむなく駐車場の一部に喫煙室を設け敷地内禁煙は断念しました。そして現在まで喫煙室での喫煙は黙認されてきました。

ところがご存じのように2016年10月12日、厚生労働省は2020年の東京五輪・パラリンピックに向け受動喫煙対策として喫煙者本人や施設管理者への罰則付きで医療基幹は敷地内全面禁煙とする初の制度案を発表しました。

熊本市内では、とくに敷地内全面禁煙を達成している病院もあり、当院は遅ればせながらやっとその一歩が始まります。能動喫煙、受動喫煙の悪影響は周知の事実ですが、禁煙への道のは長くなりそうです。病院としての決意表明は当然ですが、患者や家族への説明、病院スタッフの協力を地道に行い、さらに周辺の施設や、住民の皆さまからのご理解も得ながらすすめていきたいと思えます。

(禁煙委員会副委員長 岡本 実)



## 平成29年度新任職員宿泊研修が行われました

平成29年4月7日(金)8日(土)に、医師・レジデント12名と研修医24名を含む合計66名が参加して、平成29年度新任職員宿泊研修会が阿蘇熊本空港ホテル・エミナースで開催されました。1日目は、当院の高橋毅院長による「当院における救急医療体制の構築の歴史」と題する講演が行われ、実績として2016年度は救急搬送件数で1万件を超えたことと当院の救急システムの流れ等を具体的に学びました。

この講義の中では「1年365日24時間、断らない救急医療」をスローガンに、全国有数の救急病院にまで進歩して来た経緯も含まれています。

また、その後は意見交換会が行われ、新人職員を含め夜遅くまで職員間の親睦を深めました。2日目は、Jプレゼンスアカデミーの南ます代先生による「患者接遇マナー研修」が実践形式で行われ、午後からは、当院の原田正公救命救急科医長により「救急外来診療の実際」の講演が行われました。研修会で学んだことを今後の業務にいかして参ります。

(管理課長 福田信也)



平成29年度新任職員と記念撮影



高橋院長による講演



Jプレゼンスアカデミーの南ます代先生の患者接遇マナー研修



「患者接遇マナー研修」実践研修

## 熊本市医師会勤務医部主催 『新臨床研修医との懇談会』が行われました

去る4月8日(土)午後6時から熊本市医師会館で上記懇談会が行われました。新研修医達には勤務開始第1週目の週末で、新人オリエンテーション、各種研修、さらには前日から阿蘇熊本空港エミナースでの『宿泊接遇マナー研修』明けというタイトな日程でした。新研修医は当院19名、日赤13名、済生会12名、大学8名、中央7名、森都1名で、当院がダントツの最大勢力でした。市医師会長福島先生と勤務医部世話人濱田先生の御挨拶の後、理事や副世話人の先生方から熊本市医師会の御紹介がありました。その後懇親会に移行し、新研修医達が一人ずつ自己紹介を行いました。当院研修医達はトリを務め、接遇マナー研修の成果を発揮して立派な挨拶をいたしました。



当院の新研修医



新研修医の自己紹介の様子

上は各施設から院長・副院長・教育担当者等が数名ずつで、医師会からも役員の先生方は6名だけの御出席でしたので、会場内には研修医の圧倒的な若いパワーが満ち溢れていました。医療の将来を担う活気にあふれた若者達が一堂に会するのを目の当たりにする機会を得、その姿は見ていて実に頼もしく、『熊本の未来は明るい』と本当に確信しました。最後は『お楽しみ抽選会』で盛り上がりましたが、なんと豪華景品の1等、2等、3等をすべて当院の研修医が引き当てるというラッキーに恵まれました。幸先の良いスタートとなったのではないのでしょうか。彼らの成長が実に楽しみです。

(教育研修部長 富田正郎)

## 医学生のための臨床研修説明会のお知らせ

平素は研修医の地域医療研修等についてご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。さて、この度、当院では毎週金曜日に行なっております医学生を対象とした病院見学会に加え、次年度の臨床研修に向けての臨床研修説明会を下記の通り実施することになりましたのでご通知申し上げます。

説明会では指導者および研修医も参加し、医学生との意見交換や病院機能・研修内容等についての紹介もあり、当院のことを理解してもらう良い機会ですので一人でも多くの医学生に参加して頂きたいと思っております。熊本医療センターでの研修に興味をお持ちの医学生がおられましたら、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

(教育研修部長 富田正郎)

### 医学生のための臨床研修説明会

日時：平成29年6月4日(日) 13:00~16:30

場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール



# 病院増改修整備工事の進捗状況

平成29年1月より始まった『病院増改修整備工事』の準備工事（Step 1）が、4月18日（火）に完成しました。これで、『Step 0（現場事務所、仮設間仕切工事）』、『Step 1（仮設棟工事）』が終了したことになります。これから先は、いよいよ、増築棟を建設するために既存棟（研修棟、食堂・売店棟）を解体する工事：『Step 2』へと移行します。解体工事に伴い、一方通行等の規制を行っていますので、ご来院の際には、ご注意ください。皆様にはご不便をおかけいたしますが、安全第一に工事を進めてまいりますので、今後ご理解とご協力を宜しくお願い致します。（業務班長 朝重久緒）

### 病院増改修整備工事

1. 現場事務所、仮設間仕切工事	29年12月 Step 0
2. 仮設工事(保育所前 夜勤駐車場) (売店・食堂の仮設棟への移設)	29年1月～29年4月 Step 1
3. 売店・食堂、宿泊棟解体	29年4月～29年8月 Step 2
4. 増築棟新築工事	29年9月～30年11月 Step 3
5. 外來棟改修工事(救急外来等)	30年12月～31年8月 Step 4

### 病院増改修整備工事スケジュールについてのお知らせ

→ 緑: 緊急車両 導線  
→ 青: 一般車両 導線  
→ 赤: 工事車両 導線

※当院に於いて、「病院増改修整備工事」が始まりますので、スケジュールをお知らせします。工事期間中はご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程よろしく申し上げます。Step2(既存建物解体)、Step3(増築建物新築)時には、現場事務所・資材置き場等のスペースが、拡張します。加えて、院外薬局前の入口からは一方通行となります。

## 地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

この度、代表電話からの地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しました。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話  
**096-353-6693**

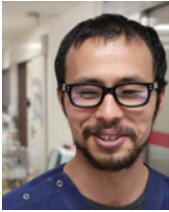
月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00  
地域医療連携室長 渡邊健次郎





## 最近のトピックス

## 敗血症の定義の変遷について



救命救急科医長  
櫻井 聖大

1991年に提唱された敗血症の定義、いわゆるSepsis 1は、全身性炎症反応症候群（SIRS）に着目したものでした。何らかの感染症によりSIRSを来したものを敗血症と定義しています。さらに敗血症の中でも臓器障害や臓器灌流低下、または低血圧を呈したものを重症敗血症、十分な輸液負荷を行っても低血圧が持続するものや、血圧の維持に昇圧剤を必要とするものを、敗血症性ショックと定義しています。Sepsis 1の欠点としては、軽症例でも比較的容易に敗血症と診断されてしまう点や、SIRS自体が感染症に特異的なものではない点などが挙げられます。

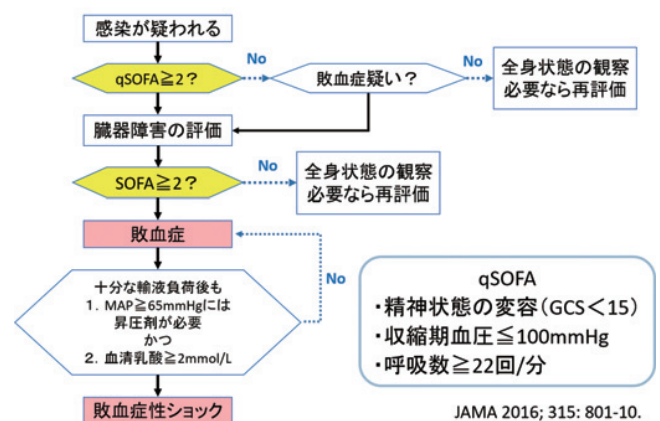
その後、2001年には全身症状に重きが置かれた定義、Sepsis 2が発表されました。Sepsis 2でも、重症度によって敗血症、重症敗血症、敗血症性ショックに分類されます。敗血症は感染に起因する全身症状を伴った症候と定義され、感染症があり①全身所見、②炎症所見、③循環所見、④臓器障害所見、⑤組織灌流所見、の5項目のうち、いくつかを満たす場合に敗血症と診断されます。5項目の中にはさらに小項目が多数あるため非常に煩雑で、しかも項目数に規定もないため曖昧な点が欠点といえます。重症敗血症は臓器障害を伴う敗血症と定義され、9つある臓器障害の項目のうち、いずれかを満たす場合に重症敗血症と診断されます。これについても煩雑さと曖昧さの指摘がなされています。敗血症性ショックは十分な輸液負荷にもかかわらず持続する低血圧を伴う敗血症と定義されますが、輸液負荷を行っても収縮期血圧が90mmHg未満、または平均血圧が70mmHg未満、または収縮期血圧が普段より40mmHgを超えて低下している場合に敗血症性ショックと診断されます。診断基準に具体性が出たものの、Sepsis 2はSepsis 1と比較して、感度・特異度ともに有意な改善を認めていないことが指摘されています。

そのような中、2016年にSepsis 3が公表されました。従来の重症敗血症に該当するものが敗血症となり、敗血症と敗血症性ショックの2本立てになっています。Sepsis 3では、感染症の中でも、より専門的かつ重点的な治療を必要とする、臓器障害合併症例に重点を置いています。客観的に臓器障害を評価するスコアとし

てSOFA (Sequential Organ Failure Assessment) スコアがあります。SOFAスコアはP/F ratioで呼吸器、血小板数で凝固能、総ビリルビンで肝、平均血圧やカテコラミン使用量で循環器、GCSで中枢神経、血清クレアチニンや尿量で腎、の6臓器を評価しますが、それぞれの臓器で0～4点のスコアが付き、高いほど臓器障害が強いこととなります。Sepsis 3では、敗血症は感染に対する宿主生体反応の調節不全で、生命に危機を及ぼす臓器障害と定義されており、感染症に伴ってSOFAスコアが2点以上増加した場合に敗血症と診断されます。しかし、SOFAスコアを計算するには動脈血液ガスや血液検査が必要なため、ICUのように設備の整った環境以外でも臓器障害を評価できる方法が求められました。そこで現れたのがqSOFA (quick SOFA) です。qSOFAは救急外来や一般病棟、あるいは病院外といったICU以外で使用する、バイタルサインのみで評価可能な敗血症スクリーニングのための指標です。精神状態の変容（GCSで14点以下）があるかどうかで中枢神経、収縮期血圧が100mmHg以下かどうかで循環器、呼吸数が22回/分以上かどうかで呼吸器、の3臓器を評価し、感染疑いで、かつ2つ以上を満たす場合、敗血症を疑うこととなります。また、敗血症性ショックについては、単純な循環障害にのみとられず、結果として生じる細胞障害や代謝障害にも着目されるようになりました。死亡率を著しく上昇させる循環・細胞・代謝の異常を伴う敗血症の部分集合と定義され、十分な輸液負荷にもかかわらず、平均動脈圧65mmHg以上を保つために血管収縮薬を必要とし、かつ血中乳酸値が2 mmol/L以上の場合に診断されます。

以上、敗血症の定義の変遷についてご説明させていただきました。なお、診察した時点では臓器障害を認めずに敗血症に該当しない場合でも、病態や病勢は変わっていく可能性がありますので、経時的に評価を行うことが重要と言えます。是非、qSOFAを使っただけ、診療にお役立ていただければと思います。

## 敗血症、敗血症性ショック診断のフローチャート



いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

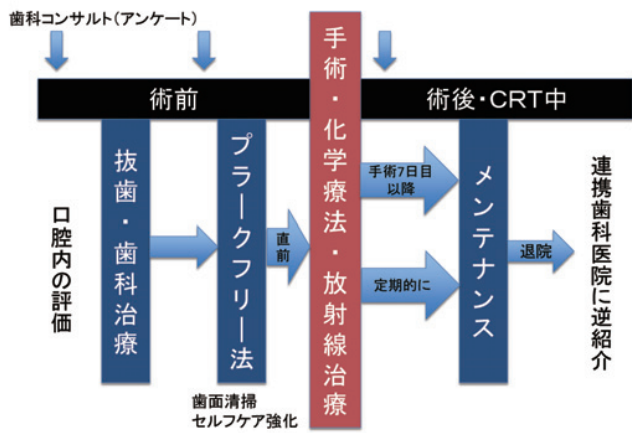
シリーズ113回

周術期口腔機能管理の介入効果

歯科口腔外科 近藤きりこ 中島 健 池田貴美子 齊藤美紀 内古閑美友紀

近年、口腔管理による周術期合併症の予防効果が明らかとなり、2012年度からは周術期口腔機能管理が保険診療報酬としても評価されるようになりました。今回、当科における周術期口腔機能管理の取り組みと、歯科介入による効果を明らかにすることを目的に調査研究を行いました。

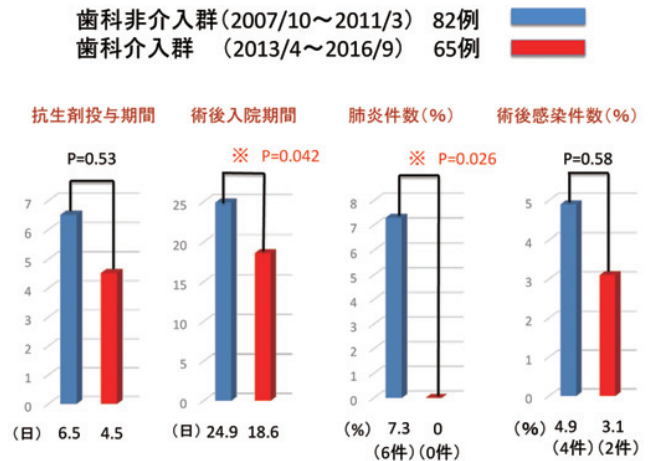
周術期口腔機能管理とは、手術や化学療法などの癌治療における合併症等の軽減を目的に治療開始前から終了後まで一連の包括的な口腔機能管理を行うことです。手術前や治療前の口腔ケアだけでなく、必要な歯科治療や抜歯も積極的に行い、口腔内環境の改善することが重要とされています。当科では特にリスクの高い心臓血管外科の手術や血液内科にて化学療法や移植を受ける患者さんを中心に周術期口腔機能管理を実施しています(図1)。他のがん患者さんに対しては入院支援室よりがん診療連携歯科医院へ積極的に紹介を行っています。



(図1：周術期口腔機能管理の流れ)

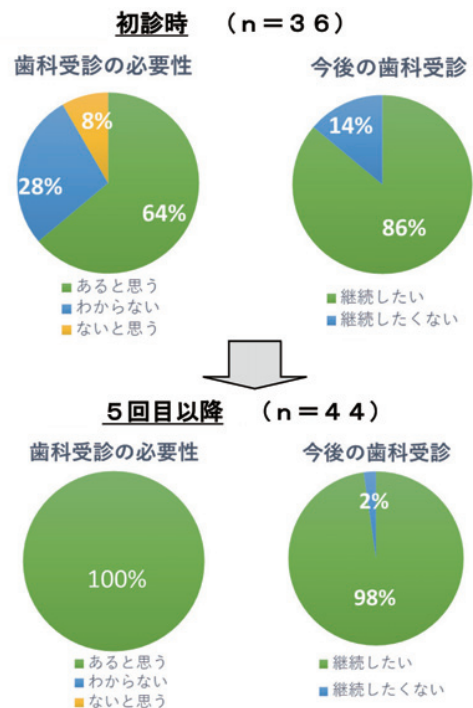
調査対象は当院心臓血管外科で手術を行った患者さんとし、歯科介入群と非介入群の歯科治療内容や術後の感染症について調査を行いました。また2016年10月に周術期口腔機能管理を行った患者さん全員にアンケートを実施しました。

介入群では手術前に感染源となる歯牙の抜歯、必要な歯科治療、口腔清掃指導を行い、手術直前に口腔清掃(ブラークフリー法)を実施しており、非介入群と比較して術後入院期間と、術後肺炎件数に有意な減少を認めました(図2)。



(図2：歯科介入による心臓血管外科手術後の評価)

またアンケートからは、口腔管理に対する一定の満足感、満足度とその必要性への理解の向上が推察されました(図3)。



(図3：アンケート結果)

周術期口腔機能管理を行った患者さんには何らかの歯科治療を必要としている方が多く、歯科介入によって口腔衛生管理に対する患者さんの意識改善に繋がることや周術期口腔機能管理が術後の合併症や肺炎の予防に効果があることが示唆されました。

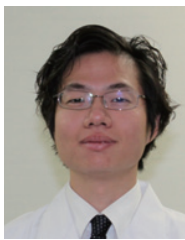
## 新任職員紹介



外科  
野元 大地

本年4月より外科で勤務させていただきます野元大

地と申します。平成27年に熊本大学消化器外科に入局し、1年間大学病院で勤務後、昨年は熊本総合病院で勤務しておりました。まだ経験が浅く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、様々な職種の方々と連携をとり、患者さんに最善の治療を提供できるよう努力してまいります。これから宜しくお願いたします。

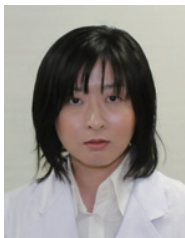


神経内科  
村上 慶高

平成29年4月より神経内科で勤務させていただく村

上 慶高と申します。平成26年に熊本大学を卒業後、熊本市市民病院と熊本大学医学部附属病院での研修を経て昨年熊本大学神経内科に入局致しました。

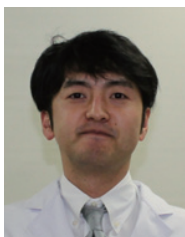
神経内科の救急疾患を中心に診療させていただき、地域の皆様に貢献できるように頑張りたいと思います。微力ながら精一杯努力する所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いたします。



腎臓内科  
山本 紗友梨

平成29年4月より腎臓内科医として赴任いたしました、山本 紗友梨と申します。私は、平成25年4月から平成27年3月まで、熊本医療センターで研修させて

いただきました。腎臓内科に入局し、大学病院、荒尾市民病院に1年ずつ勤務し、この度医師としての始まりであった当院へ帰ってくることになり、嬉しく思っております。それと同時にこれからは、しっかりと責任をもって診療に当たらねばならないという思いもあり、研修医の時とは違うプレッシャーも感じております。至らない点も多く、ご迷惑をお掛けする事も多いかとは思いますが、今の自分に出来る精一杯で頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導の程、よろしくお願申し上げます。



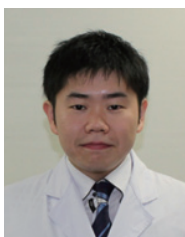
整形外科  
松原 秀太

平成29年4月より整形外科にて勤務させて頂く松原と申します。

当院では熊本の救急を支える重要な病院であり、当科としては骨折、脱臼を含む整形外科疾患を中心に対応して参ります。

少しでも熊本の医療に貢献出来るように日々心掛けていきたいと思っております。

至らぬ点も多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、一生懸命頑張らせていただきますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いたします。



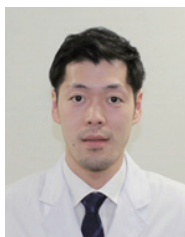
整形外科  
吉村 直人

熊本大学整形外科より参りました吉村直人と申しま

す。平成28年4月より熊本大学医学部附属病院で診療しておりました。当院は熊本を代表する救急病院であり、外傷を中心とした多くの整形外科疾患の診療に携わっていただければと考えております。医師としての経験はまだ浅く、至らぬ点も多いため、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、精いっぱい頑張っていきます。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



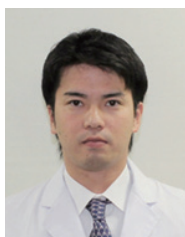
## 新任職員紹介



糖尿病・内分泌内科

わたなべ たくろう  
渡邊 拓郎

平成29年4月より糖尿病内分泌内科で勤務させていただきます渡邊拓郎と申します。平成28年に入局し、熊本大学病院で1年間勤務させていただきました。短い臨床経験ですが、患者様のお話を1秒でも長く聞き、丁寧な診療を行いたいと思っております。至らぬ点多く皆様にご迷惑をおかけすることがあると思いますが、ご指導、ご鞭撻よろしく願いいたします。



脳神経外科

まつうら じん  
松浦 任

平成29年4月より脳神経外科に勤務させていただきます松浦任と申します。3月まで人吉医療センターに勤務し、主に脳血管障害及び頭部外傷を診ておりました。経験の浅い若輩者であり、至らぬ点多々あるかとは存じますが、急性期医療に励んで参りますので御指導御鞭撻の程よろしく願い申し上げます。



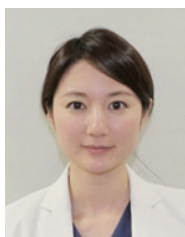
泌尿器科

にしざわ ひでかず  
西澤 秀和

の2年間でもお世話になっており、とても思い出深い病院です。昨年の震災の際には、災害医療の準備をしていた成果を遺憾なく発揮したと聞いています。

「断らない医療」を掲げる三次医療機関ということで、日々の診療の過酷さが予想されます。しかし、自身のスキルアップになることは間違いないので、一つ一つの症例を大切に診療に励みたいと思います。至らない点多いと思いますが、宜しく願い致します。

4月から国立病院機構熊本医療センターで働かせていただくことになった西澤秀和です。国立では研修医

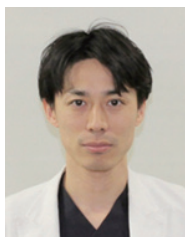


皮膚科

まえはら しの  
前原 志野

に入局し、学病院では主に悪性腫瘍や膠原病を中心に診療して参りました。研修医時代に当院の救急部に3か月間勤務させていただいたことがあり、当時お世話になった方々と再び働くことができ大変嬉しく思います。至らない点多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、精一杯勤務して参りますので、よろしく願いいたします。

平成29年4月より皮膚科にて勤務させていただきます、前原志野です。平成28年に熊本大学皮膚科形成再建科



皮膚科

たなか けんいちろう  
田中 憲一郎

ています。公治先生はあまり多くを語りませんが、情熱的な診療と時折見せる笑顔が素敵な先生です。熊本医療センターでは褥瘡や皮膚潰瘍などの疾患をはじめ、蜂窩織炎や壊死性筋膜炎などの感染症、時には熱傷まで幅広く診療しています。救急患者も多く、一日がバタバタと過ぎていく毎日ですが、チーム公治で笑顔大事に頑張りたいと思っていました。よろしく願いします！

皮膚科入局2年目の田中憲一郎です。牧野公治先生、城野剛充先生に助けていただきながら毎日過ごし

## 新任職員紹介

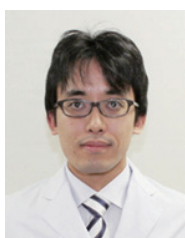


放射線科

わたかべ たかひろ  
渡壁 孝弘

平成29年4月より放射線科で勤務させていただく渡壁と申します。国立病院機構熊本医療センターは

研修医の2年間を過ごし、様々なことを学ばせていただいた非常に思い出深い場所です。そのような場所で、放射線科医として勤務できることを大変嬉しく思います。放射線科医としてまだまだ未熟な私ですが、少しでも多く、患者様、地域の先生方、病院のお役に立てよう日々精進しますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



精神科

ますだ かずき  
増田 一樹

平成29年4月より、精神科で勤務させて頂く増田一樹と申します。平成27年に熊本大学神経精神科に

入局し、熊本大学医学部付属病院、佐賀の肥前精神医療センターで1年ずつ勉強させていただき、この度、熊本に戻ってきての勤務となります。

救急病院での経験を今後の診療に生かせるよう、様々な事を学んでいきたいと思っております。まだまだ至らぬ点多くご迷惑をおかけするとは思いますが、少しでもお役に立てるよう、頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



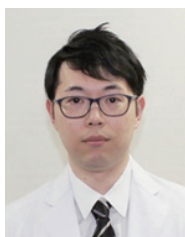
精神科

うの かつあき  
宇野 克明

皆様はじめまして。今年度より熊本医療センターで精神科医師として勤務させていただくこととなりました、宇野 克明と申します。平成26年4月より熊本医療センターで初期臨床研修医としてお世話になり、

平成28年4月より熊本大学付属病院 神経精神科に入局しました。1年間の大学病院での勤務を経て、再び当院で勤務する機会をいただきました。

医師としてのスタートを切ったこの病院で再度勤務することになり、喜びと同時にある種の緊張も感じています。まだ精神科医師としては未熟であり、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、当院での診療に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



精神科

ごとう じゅんいち  
後藤 純一

熊本大学の神経精神科より参りました後藤純一と申します。平成28年度に熊本大学の神経精神科に入局して、精神科の後期レジデントとして大学病院で1年間勤務して、今年度から熊本医療センターに赴任しま

した。

熊本医療センターは救急医療のメッカと聞き及んでおります。精神科としましては、せん妄をはじめとした器質性・症状性の精神障害の治療を担っていく役割であると認識しています。

この1年間で上記疾患群に対する診療を自信を持って行える実力をつけたいと思っています。精神科2年目の若輩者で、至らぬ点多いかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



# 研修のご案内

## 第2回 診断と治療—最新の基礎公開講座—

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

日時▶平成29年6月17日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:東熊本第二病院 院長

馬場太果志 先生

演題:「貧血診療の進歩」

### 1. 貧血の病態と診断

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

原田奈穂子

### 2. 骨髄異形成症候群の病態理解と治療

国立病院機構熊本医療センター血液内科部長

日高道弘

### 3. 再生不良性貧血-発作性夜間血色素尿症(AA-PNH)治療の進歩

特定医療法人萬生会 合志第一病院 副院長

堀川健太郎 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

## 第220回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年6月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

### 1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います

「第1症例 整形外科手術後に失神をきたした1症例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

山田敏寛

「第2症例 特発性血小板減少性紫斑病の経過中に悪性リンパ腫を発症した1例」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

河北敏郎

### 2. ミニレクチャー「薬剤性腎障害—ブシラミン腎症を中心に—」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

山本沙友梨

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第154回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成29年6月21日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:「精神科救急兼熊本救急医療自傷自殺問題カンファレンス」

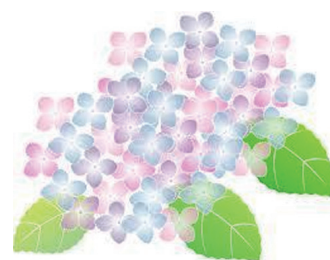
国立病院機構熊本医療センター精神科部長

渡邊健次郎

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)



# 2017年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研修室
1日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「輸液療法について」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎	
2日(金)		
3日(土)	9:30~14:30 第40回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 すえふじ医院 院長 末藤 久和 先生
4日(日)		
5日(月)		
6日(火)		
7日(水)		
8日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「輸血療法について」 国立病院機構熊本医療センター臨床検査科長 日高 道弘 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会	
9日(金)		
10日(土)		
11日(日)		
12日(月)		
13日(火)		
14日(水)		
15日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「血液ガスについて」 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 瀧 賢一郎 20:00~21:30 第75回 医歯連携セミナー 「婦人科悪性腫瘍の化学療法について」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 西村 弘	
16日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「急性肝炎、慢性肝炎について」
17日(土)	15:00~17:30 第2回 診断と治療-最新の基礎公開講座- 「貧血診療の進歩」 [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 座長 東熊本第二病院 馬場 太果志 先生 1. 貧血の病態と診断 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田 奈穂子 2. 骨髄異形成症候群の病態理解と治療 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘 3. 再生不良性貧血-発作性夜間血色素尿症(AA-PNH)の治療の進歩 特定医療法人 萬生会 合志第一病院 副院長 堀川 健太郎 先生	
18日(日)		
19日(月)		19:00~20:30 第220回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
20日(火)		
21日(水)	18:30~20:00 第154回 救急症例検討会 「精神科救急兼熊本救急医療自傷自殺問題カンファレンス」	13:00~17:00 糖尿病教室(研2)
22日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「抗菌薬の使い方」 国立病院機構熊本医療センター感染症科医長 小野 宏 14:00~15:00 第51回 市民公開講座 「消化管内視鏡の検査、治療について」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 松山 太一	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
23日(金)		
24日(土)		
25日(日)	13:00~17:00 第31回 臨床薬理セミナー 「病薬連携における診療情報共有のあり方-院外処方せん発行・応需と診療情報の共有に関する現状と課題」 [日本医師会生涯教育講座4単位認定] [日本薬剤師研修センター認定研修2単位認定] 1. 病病(診)/病薬連携と診療情報ネットワークの現状と課題 医療法人朝日野会 朝日野総合病院 院長補佐 片岡 茂 先生 2. 院外処方せんへの検査値記載による効果と今後の課題 3. 院外処方せんへの検査値表示・1回量処方等を踏まえた保険調剤薬局との情報共有の実際-病院情報システムを活用した安全対策支援と連携- 熊本大学医学部附属病院薬剤部薬品情報室長 遠原 大地 先生 4. 調剤薬局業務における診療情報の共有に関する現状と問題点-処方せん応需薬局からの視点 熊本県薬剤師会 常務理事 森山 憲治 先生	
26日(月)		
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
28日(水)		
29日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「心電図の読み方」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治	
30日(金)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)